

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300058		
法人名	医療法人社団 大治会		
事業所名	グループホーム おおぞら		
所在地	岐阜県加茂郡八百津町錦織1530-39		
自己評価作成日	平成24年6月18日	評価結果市町村受理日	平成24年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokouhou.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=2191300058&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年7月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が運営するグループホームの為、協力医療機関との連携がスムーズにとれており、利用者様の体調管理や持病の悪化防止はもとより、急病の時などすぐ対応ができる体制になっています。施設全体の敷地が散歩するのに適しており、近隣の山々の風景を眺め四季の移り変わりを感じながら散歩することが日課になっています。また敷地内に広大な畑があり、水撒きや草引き等を皆さんと行い、ナスや玉ねぎの収穫をして 皆さんで頂いています。秋には干し柿作りもし皆さんが慣れ親しんだ習慣を大切にしています。心のケアを大切にして、グループホームの生活が少しでも自宅にいる時と同じような、気楽でまた安心して過ごされるように、利用者様の生活を支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

行政からの要請を受け立ち上げた事業所には、病院、介護老人保健施設、通所リハビリテーション等が併設されている。それらは密接に連携しており、医療と介護のサポートを受け、利用者は、明るく、生き活きと生活している。一人ひとりの利用者の人権やプライバシーを守り、その人らしい暮らしを続けられるよう、職員は「笑顔、工夫、感動、心を大切にできるケア」を理念とし、実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔、工夫、感動・心を大切にするケア」の理念のもと 笑顔で毎日過ごされるよう工夫しながら援助し 利用者様と職員が協力しながら元気で毎日過ごすことに感動を覚え 安心して生き活きたした生活を送られるように毎朝の申し送り時等に話し合いをしている。	事業所の理念「笑顔、工夫、感動の心を大切にするケア」を申し送り時等に確認し、共有している。職員は、利用者の笑顔を引出し、生き活きたした生活が送れるように、日々の暮らしの中で理念を意識づけ、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年の4月から地元の自治会に入会し回覧板など回るように今年も引き続き入会をお願いした。また敷地内の畑に地元のボランティアさんがみえた時など交流を図っている。	自治会に入会している。回覧板で地域の情報を得て地域行事に参加している。地元の中学生の体験学習を受け入れ、介護の困りごとの相談にも応じている。野菜作りに訪れる地域ボランティアと、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学生の職業体験学習を受け入れ中学生はもとより引率の先生方にも認知症介護の基本を教えている。また運営推進会議などでグループホームや認知症の方の理解を求め 認知症介護で困っている方の相談等に応じる旨を知らせた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議前に利用者様と会議に来られた方と触れ合う時間を設け利用者様の身体や精神等の現状を知って頂いたうえで 会議に出席していただき意見を伺ってそれをサービス向上に生かしている。	隔月の平日に1回開催し、行政、地域の役員、家族等が参加している。利用者の現状、サービスへの取り組み等を報告して意見を聞き、サービスの向上に活かしている。自立度の高い利用者が会議へ参加ができないか検討している。	家族と共に、利用者も参加し、気楽に要望等が言える環境作りへの取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月末に入退所の報告をし 町の担当者に運営会議に出席を頂き 事業所の考え方や現場の実情を伝え それに対しての意見を頂いている また地域運営会議で地域の高齢者の実態を伺っている。	事務長が町担当窓口へこまめに出向き、事業所の実情を伝え、相談にのってもらう等、連携をとり協働関係を構築している。運営推進会議には担当課および地域包括支援センターが欠かさず参加し、地域の情報を提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は研修等を通じて話し合っている 玄関は夜間に施錠するだけで 解錠時などに出て行かれた場合でもすぐに呼び止めるスピーチロックはしない 自由の支援のため隣接する老健の職員とも連携を図っている。	事業所内の学習会で「身体拘束ゼロへの手引き」等を用い、「拘束について、拘束をしてはいけないこと」を学び、拘束しないケアを実践している。特に気持ちを押さえたり、さえぎらない言葉掛けを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は研修を通じて学んでいる 入浴時に体の異変があればすぐ管理者に報告がされるようになっている。		

岐阜県 グループホームおおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在 権利擁護に関する制度を活用する利用者様はみえない 成年後見制度について過去に学んだ職員もいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や契約時に 家族の方や利用者様に当事業所の疑問や不安また介護の方法や考え方を説明しご理解ご協力を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会や電話連絡の時に 近況報告をし 家族の要望や意見を聞くようにしている 要望があれば連絡ノートやカンファレンス等で全職員に周知徹底している また要望に対して話し合う事があれば月1回の会議で話し合う体制にしてある。	面会時や電話等で意見や要望を聞き、運営に反映している。毎月送付する近況報告書に、家族の記入欄が設けてあるが記入は無く、意見を引き出すための文言を検討している。バーベキューと合わせた家族会は、ほとんどの家族が参加し、気軽に意見を交換する機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や 毎日の申し送り等に現場の職員の意見を聞いている 意見交換をしながら利用者様のより良い生活になるよう努力している。	職員は、毎日の申し送り時やカンファレンスの中で、気楽に気づきや意見を交換している。管理者は、ケア事例の対応やヒヤリハット等を、サービスの質の向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者から週1回話を聞きアドバイスをしている 管理者は必要に応じて職員と面談し助言する また研修や朝のカンファレンスを通し向上心を持てるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設前8日間 職員全体に研修を行う 法人内外の研修は月1回のペースで行えるよう計画している 毎朝のカンファレンスでその都度管理者がスーパービジョンし職員のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内には同業者がない為 隣接する市のグループホームに連絡しながら、勉強させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り事前に家族と本人一緒に来所してもらい 不安や要望を聞きスムーズに入所出来るよう又職員や他の利用者様の顔を覚えてもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来所時 困り事や生活歴等をよく聞いて 当事業所の理念や取り組み方などの話を交え その人らしい生活を見出している 同時に家族愛の重要性や協力をお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時 家族の要望は当事業所で概ね可能な事が多い 出来ない事は隣接するデイケアや協力医療機関に協力を仰ぐ またボランティアさんにも協力してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員は、お互い感謝しながら炊事洗濯掃除や水撒き等を一緒に行い 昔話を聞いて 農作物の作り方などを教わっている また昔の歌を一緒に歌いながら 知らない曲等も教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来られるたびに近況報告をしながら また家族の方に話を聞きながら 本人に今一番大切な支援を家族と共に協力して行えるようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接するデイケアの利用者様の中に知人が多く 交流の場になっている 又地元のスーパーで買い物をする 兄弟や親せき友人の方が また来所しやすい雰囲気になるようにしている	知人や親戚の面会時は、ゆったり過ごせる雰囲気作りに配慮している。隣接のデイケアを利用している知人との交流を支援している。家族の協力で、馴染みの商店や墓参りに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員で朝夕の散歩に出かけたり 歌を一緒に歌ったりしている また孤立しそうな方には座席位置に留意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	オープンしてから退所された方は少ない 近くの施設に入居された方は職員がその施設に訪問した際に声かけしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや意向が 職員全体で把握できるように 毎朝のカンファレンスやその都度ほんの些細な訴えにも耳を傾けるようにしている 入浴時は職員と1対1になるため本音が出やすい そのためゆったり入浴してもらい 思いや希望を話される場となっている。	利用者の何気ない会話や表情から、一人ひとりの思いや意向を把握している。把握が困難な人には、さりげなく寄り添い、希望や意向を汲み取っている。個々の思いは、職員間で共有し、その人らしい暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもとより家族の方が来所された時など生活歴など さりげない会話の中から情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様のやる気やADLなどを考慮しながら レクや家事など少しづついろんな事に無理のないようにチャレンジしてもらい 有する力を職員全員で把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人はもとより来所される家族との会話や職員の毎日カンファレンスから 総合的に判断し作成している。ご本人の生活が落ち着いておられる事を第一に考え作成している。	介護計画は、本人、家族、職員、医療関係者等の意見を反映して作成している。利用者がその人らしく暮らしていくために、3ヶ月毎や随時に見直し、一人ひとりの現状に合わせた計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録は排泄やバイタル等本人が気がつかない体の変調に留意している また本人が何を話されたことなど記録し その思いを介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況を考え訪問診療を取り入れ 医師と連絡を密にし持病の悪化防止に努めている また隣接するデイケアのマッサージ機器を利用したりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんとか自治会長さんとは話を持つ機会があり 何かあれば相談できる環境になっている地元の畑のボランティアさんとは顔なじみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの利用者様が入居前に診療を受けていたかかりつけ医で 家族の希望で訪問診療をお願いしている。急変などあれば直接かかりつけ医と携帯電話で連絡をとっている。	利用者のほとんどが、事業所の利用以前から法人の医師をかかりつけ医としている。そうでない人も、利用後、家族の希望により法人の医師に変更し、現在は全員が法人の医師をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている。協力歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が一人配置されているので 毎日のバイタルチェックをし状態が悪くなればすぐに医師に報告がいくシステムになっている また夜間なども隣の病院と連携している 又会議等で看護職が疾患の注意点など職員にレクチャーしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	同法人内の医療機関に入院できれば 密な情報交換も可能になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護で対応できる範囲は出来る限り入居して頂くが 医療の介入が必要と医師が判断した場合は 概ね法人内の病院に移ってもらう事を入所時に家族の方に相談し説明してある。	重度化や終末期には、医師の判断により、法人の病院に移ることが事業所の方針であることを、契約時に説明している。状態が急変し、医師、多数の親族、職員で看取ったケースもあった。職員は、チームで支援できたことの実績を活かし、利用者・家族のニーズに応えることを目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの取り扱い研修を2回ほど受けた AEDや救急バグの設置場所を確認している また急変や事故が起きたら即座に協力医療機関と連携がとれるシステムになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様も参加し年2回火災訓練を行っている 施設周りは広々としているので避難するところは多い またオール電化になっている。	年2回の避難訓練、緊急連絡網による夜間の訓練を実施している。防災の専門企業と契約し、設備や機器の点検や補修等を委託している。周辺には人家が少ないため、同一敷地内の系列施設が、防災組織として機能するように、協力体制を築いている。	地域との協力体制づくりには、物理的な課題があるため、系列(病院・老人保健施設)防災組織の自助力に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人それぞれ人格が違うので 一人ひとりの方にあった対応に気をつけている 利用者様が気になる行動や発言をされた時はカンファレンス時に話し合っている。	一人ひとりの利用者の人権やプライバシーを守り、その人らしい暮らしを続けるための支援について職員は日々話し合っている。認知症をどう理解していくか、誇りを傷付けない言葉かけ等について学習している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に沿うように支援しているが 特に何も意思表示されない方でも 言葉かけや表情で判断し自己決定を促している 入浴時等はなるべく自分で服を選んだり 買い物でもお菓子など選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間 起床時間などは特に決めてない 食事の時間も大体毎日同じ時間になるが その時間に食べられない方は遅くしている 職員の休憩時間もきっちりとは決めておらず 利用者様の状態に合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容はほとんどの方が 施設内で美容師に事細かく好みを伝えてカットしされている お化粧をされる利用者様もみえ、女性の方全員に時々マニキュアを塗っている 男性も髭をきちんと剃っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食方式だが 利用者と職員は毎日一緒に 食事の準備や片付け 同じテーブルで食事をしている 食事がおいしくたくさん摂取してもらえるよう 楽しい時間になるように心掛けている 又メニューの希望などを栄養士に伝えている。	ホームの畑で採れた野菜を利用して、漬けものやスープ等を利用者と共に作っている。職員も一緒に食事し、野菜の切り方、味加減等、話題も豊富で和やかな食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲が出るように 毎日散歩や体操など適度な運動を取り入れている 水分も夏場なるべく多く摂取してもらうため飲み物の種類を変えている。水分の回数は3回の食後、10時3時入浴後は必ず紅茶やポカリをお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎回食後に行うよう促している 寝る前に行う習慣の方はその時行っている 義歯の方は毎日ポリドントで消毒している 見守りが基本だが出来ないところは支援している。		

岐阜県 グループホームおおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握して 夜間など誘導を行っている パッドや紙パンツで対応している方もみえるが 基本昼間は布パンツのみで過ごして頂くように支援している。	一人ひとりの利用者の排泄パターンにあわせ、さりげなく誘導し、羞恥心等に配慮して、トイレでの気持ちの良い排泄や排泄の自立にむけた支援をしている。全員が布パンツを着用し、パッドで失禁対策を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は特に注意している 朝食後の排便反射時に必ずトイレに行くようにし 水分摂取や散歩等の運動で対応している 便秘気味の方も整腸剤で調整し 下剤や浣腸はほとんど使わないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は出来る範囲で 頻回に入られるようにしているが一人ひとりゆったりとくつろいで入ってもらうように留意している 入浴の準備から終了まで職員が1対1で個別に介助支援している。	1日に4名ほどを目安に、隔日の入浴支援をしている。職員が見守りながら15分以上の長風呂を楽しむ利用者もいる。入浴を拒否する場合は足浴等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は体の調子が悪いとか本人の訴えが無い限り 居間で皆さん一緒にくつろいでみえる その為かほとんどの方は 夜間安眠されている。入所時眠剤を服用していた方も1週間もしないうちに服用しなくても熟睡されるようになった。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに薬の説明書が綴ってある 変更時は看護職から情報が提供される 投薬は必ず声を出して名前を言い飲み込みを確認しチェック表に記入している。状態を見て主治医と相談し無駄な薬の削減をはかっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の趣味や仕事等の生活情報を得て 野菜の栽培 貼り絵等の趣味や炊事洗濯掃除を皆さんで行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は必ず皆さんで散歩に出かけている 年に数回、紅葉狩りや社会見学等遠出にも出かけている。	皆で作っている畑の野菜の出来具合等を話題に、事業所の周辺を、日常的に歩いている。年に数回、花見等の行楽に出かけている。墓掃除や買物等、家族の協力を得て支援している。	

岐阜県 グループホームおおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は小遣い銭を事務所で管理し 個人的に必要なものを買い物の時などそこから利用者様が支払いをしたりしている また家族から小額の小遣いをもらい自分で管理されている方もみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人が希望された時は使用出来るがそれほど希望が無い 手紙もほとんどの方は要望がないが 先日はがきをだされたいと要望のあった方は支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造作りなので全体として落ちついた雰囲気になっている 居室のドアは皆同じなので取っ手の色を変えてある また自分の好みの暖簾を入口の前に飾り分かりやすくしている 散歩で摘んできた花や絵画等を食堂などに飾ってある。	利用者は、居心地が良いのか、日中の大半を居間で過ごしている。可変式のテーブルや利用者の体型に合わせた椅子を設置している。職員の動きを身近に感じられる季節の花を飾ったカウンター、目につく場所にはちぎり絵等を飾り、生活感のある共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂居間に椅子ソファがあり 自分の好きなどころでくつろいでみえる 一人になりたい方は玄関の椅子か隣の老健のユニットを繋ぐ廊下の椅子に座ってみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際 使い慣れたものやなじみのものを持ってきて頂くようお願いしている 居間は居間で皆さん楽しく過ごされている。	ベッド、整理ダンス、洗面化粧台、椅子等は備品で、生活しやすいように配置している。持ち込んだ小物類や写真、趣味の物等を活かし、安心して過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口には 個人の暖簾が掛けてあり トイレはピンクのドアになっている 最初戸惑う方もみえるが 何回か案内すれば自分の力で迷わず行かれるようになってきている。		